

希望



希望

マルタはイエスに言った、「主よ、あなたがここにいてくだされば、私の兄弟は死ななかつたのです」。これは、弟ラザロの死に際して、マルタがイエスに言った言葉である。この言葉は、何百万もの人が経験する、愛する者が死によって奪われたときの悲痛な後悔の念を表している。そのようなとき、もしこうしていたら、ああしていたら、あるいは別の医者を選んでいたら……という多くの思いが頭をよぎる。もし死が旅行中の事故によるものであったなら、愛する人が旅行に行かなければこんなことにはならなかつたのに、と言うかもしれない。マルタの場合、イエスの不在が弟の死につながつたと考え、イエスを責める気持ちになった。

多くの人がこのマルタの視点に共感し、愛する人の死は何らかの形で主に責任があると

感じたり、
の悲劇が起こるのを防ぐことができたかもしれないと思ったりしている。そこで彼らは、なぜ？彼らは、何らかの形で神に不快感を与えるようなことをしたに違いない、あるいは亡くなった人が不義を働いたために特別に罰せられたに違いないと想像する。もし後者が本当なら、死んだ人は今どんな状態なのだろう？死よりもひどい苦しみを味わっているのだろうか？

死が家庭を訪れるとき、多くの人を悩ませるのは、墓の向こうに何があるのかという、通常は答えのない疑問である。愛する人にまた会えるのだろうか？彼らは今幸せなのだろうか？私たちの心は、悲しみから生じるこれらすべての悩ましい疑問に対する明確な答えを切望している。その答えは神の御言葉にある。

人はなぜ死ぬのか？多くの方は、人が老いて死ぬのは自然なことだと答えたがるだろう。しかし、その答えの弱点は、何百万人もの

人が老いる前に死んでしまうことだ。死神は、老いも若きも、また聖人も罪人も同様に打ち殺す。幼児であろうと年老いた親であろうと、そのショックは同じように大きい。何千年もの間、この怪物との経験を積んできた人類でさえ、死の訪れには慣れていない。死は常に不自然で、望まれないものだからだ。

聖書は、人間が死ぬのは罪のせいであり、死に打ちのめされる一人ひとりの罪ではなく、原罪、つまり私たちの最初の両親の罪のせいだと説明している。使徒は「罪が世に入り、罪によって死が入った」と説明している（ローマ5:12）。（ローマ5:12）。遺伝によって、私たちは皆、死にゆく人種の一員なのだ。なぜなら、この悲劇的な経験は、私たちの関心や配慮の欠如によるものではなく、死んだ本人や残された親族に対する特別な罰でもないからである。私たちの最愛の人が死ぬのは、聖書がこう述べているからである。その上、私たちは、アダムにいるすべての人が死ぬのと同じように、"キリストにあっては、すべての人が生かされる

"という神の御言葉の素晴らしい約束に慰めを得ることができる。1コリント15:22

すやすや

イエスの時代、そしてベタニヤに住むマリア、マルタ、ラザロという最愛の家族の時代までさかのぼると、私たちは非常に啓発的で励まされる考えを得ることができる。イエスはこの家族の特別な友人であり、彼らはラザロが病気になったとき、イエスがそのことを知ればすぐに助けに来てくれることを当然のこととっていたようだ。イエスは仕事の関係でベタニアから少し離れていたが、二人の姉妹がイエスのもとにメッセージを送った。ヨハネ11:3

イエスはこのメッセージを受け取ったが、2日間何もしなかった。ついに、イエスは弟子たちに言われた。"わたしたちの友ラザロは眠ってしまった。(ヨハネ11:11)。この発表は弟子たちにとって驚きであった。彼らもまた、
、ラザロが重病だと聞いていたからだ。おそ

らくイエスは、自分が受け取ったメッセージについて彼らに話したのだろう。しかし、もしラザロが眠っているのなら、なぜ主人がラザロを起こそうとするのか、彼らは理解できなかった。主よ、眠っていればよくなりますよ」。つまり、静かに眠っている病人を目覚めさせるのは大きな間違いであり、眠り続ける方がずっと良いと考えたのである。

しかし、彼らはイエスの言わんとすることが理解できなかった。「しかし、イエスはお自分の死について語られた。(ヨハネ11:13)。弟子たちがラザロが眠っているということを見誤解しているのを見て、イエスははっきりと言われた。(ヨハネ11:14)。ここに、主人ご自身の口から、死についての最も興味深く、同時に慰めに満ちた視点が語られている。死は眠りのようなものであり、死んでいる者は、主の時が来て眠り（死の眠り）から目覚めるのを、知らず知らずのうちに待っているのである。このように、「眠り」は、私たちが死の意味を理解するのに役立つ、聖典の挿絵のひとつであることがわかる。

睡眠には主に2つの特徴がある。ひとつは、眠っている人は無意識であるということ。周りの世界で何が起きているのか気づいていない。悲しみも喜びもない。悩みもなく、喜びのスリルもない。飢えも渇きもない。この状態について、聖書はこう宣言している。"生者は自分が死ぬことを知っているが、死者は何も知らない"。伝道者の書9:5

眠りにはもうひとつ特徴がある。それは、死を象徴するものとして考えるとき、非常に重要な意味を持つ。それは目覚めの予感である。母親は愛しい我が子をベビーベッドに寝かせ、なだめるような子守唄を歌って聞かせる。母親は愛しい子への愛に満たされ、翌朝、子供の楽しいおしゃべりを聞けることを期待して喜ぶ。涙を流すことも、心を痛めることも、寂しさを感じることもない。子どもはただ眠っているだけであり、朝になれば、その明るさが再び家庭に浸透して目覚めるからだ。

死んだ少女について、イエスは言われた。"少女は死んだのではなく、眠っているのだ"。(マタイ9:24)。ここでもまた、ラザロの場合と同じように、イエスは死を単なる眠りだと言われた。キリストを通して神が命を与えてくださるという立場からすれば、地上の新しい日の朝に目覚めがあるはずだからだ。イエスは弟子たちに言われた。"わたしたちの友ラザロは眠ってしまった。(ヨハネ11:11)。イエスはラザロを死の眠りから目覚めさせるつもりで、後にその意図を実行に移し、ラザロの姉妹たちやイエスを愛するすべての人々を喜ばせた。

再び生きるために

弟子たちに自分の意志を告げた後、イエスはベタニヤに向かい、友人であるマルタとマリアの家に行かれた。マルタは、家に近づいたイエスを出迎え、兄が生きている間に来なかったことを優しく咎めた。そして、イエスは彼女に驚くべきことを言われた。この言葉は、それ以来、何世紀にもわた

って響き渡り、その素晴らしい単純さを理解し、いつかそれが実現すると信じる事ができた何千人もの嘆き悲しむ人々に慰めを与えてきた。あなたの兄弟はよみがえる"と。ヨハネによる福音書11章23節

ここに、死んだすべての人に対する聖書の偉大な希望がある。しかし、"再び"という言葉を見落としてはならない。イエスはマルタにこう言われたのではない。彼は死んだのだ！イエスは弟子たちに「ラザロは死んでいる」とはっきりと言われたのであり、マルタとの会話でこの真理を否定されることはないだろう。

その何世紀も前、預言者ヨブは"誰かが死んだら、その人はまた生きられるのだろうか？"と尋ねている（ヨブ記14章14節）。（ヨブ記14:14）。
、ヨブがこの質問をしていることに注目することが重要である。彼は、"人が死んだら、その人は本当に死んだのだろうか？"とか、"肉体が死んだ後も、人間には生き続ける何かがある

あるのだろうか?"とは尋ねていない。ヨブは、死が現実であり、ひどく悲劇的な現実であることを知っていた。死は罪に対する罰であり、全世界の人間が罪人であったため、すべての人が死につつあることを知っていた。ヨブが知りたかったのは、死者が生き返るのかどうかということだった。イエスは、ヨブのために、マルタのために、そして「あなたの兄弟はよみがえる」というイエスの言葉の単純な真実を受け入れようとするすべての人のために、この質問に答えてくださった。

死者が将来の時に生き返るということは、マルタにとって新しい考えではなく、この祝福された希望を抱かせる旧約聖書の約束を信じていたからである。預言者ヨブは、"人が死んだら、生き返るのか?"と尋ねた後、その答えを見つけ、彼自身の希望についてこう言った。あなたの手で造られた被造物を待ち望む。"ヨブ記14:14,15

「最後の日

イエスがお生まれになった時、ヘロデの勅令によって殺された子供たちの最終的な運命の希望に関する預言の中で、主は、その預言の中でラケルと呼ばれている、泣いている母親たちにこう言われる。だから、あなたの子孫には希望がある」と主は宣言される。エレミヤ31:16,17

マルタはおそらく、老いも若きも死者が生き返る時が来るといふ、信者を保証するこれらの素晴らしい約束を知っていたのだろう。その上、イエスは彼らの家によく来ておられたので、彼女は間違いなく、イエスの靈感を受けた口から発せられた素晴らしい命の言葉を聞いたことがあった。だから、イエスが「あなたの兄弟はよみがえる」と言われたとき、彼女は答えた。(ヨハネ11:24)。そう、彼女はすべての死者が「よみがえり」、
、死の眠りから目覚めることを知っていた。

マルタが言った "終わりの日
"とは？人類を罪と死から救い、回復させる神
の計画は、聖書では "日
"と呼ばれる期間に分けられている。神の回復
計画が完成するのは、これらの期間の最後の
日である。神の計画における "最後の日
"の長さは1000年であり、キリストの支配の1
000年である。

この期間が "一日
"として語られていることは、非常に重要な意
味を持つ。なぜなら、それに先立つ6千年に
わたる人類の経験が、聖書では暗黒の時、悲
しみと死の夜と呼ばれているのとは対照的だ
からだ。この罪と苦しみの闇夜と、それに続
く喜びの朝について、詩篇の作者はこう書い
ている！泣きは夜の間続くかもしれないが、
喜びは朝とともにやってくる。" 詩篇30:5

ダビデは神の "怒り
"について述べているが、神が執念深く、被造
物の苦しみを喜ばれる方だとは考えてはなら
ない。神の怒りは、悪人を永遠に火の地獄で

苦しめることでも、限られた期間の「煉獄」でも表現されない。新約聖書は、神の "怒り"について語り、それは今もなお、すべての不義に対して天から啓示されていると説明している（ローマ1:18）。（ローマ1:18）。神の怒りは、全人類に下されている死の宣告に表れている。1コリント15:22

神の寵愛の中にこそ命がある、と詩篇の作者は宣言する。（詩篇30:5）。ここで、神の好意は神の怒りと対比されている。私たちの最初の両親が神の掟に背いたとき、神は彼らから好意を取り除かれた。そのため、自動的に「あなたは地に帰り、そこから取られた。創世記3:19

それ以来、人類は死に続けている。神がその寵愛の陽光を取り去られたとき、人類は「闇」に包まれた。この「夜」は、罪とその結果に対する世界の経験であり、まさに泣きの夜であった。しかし、それは永遠に続くものではない！死が犠牲者を襲うのを止め、死んだ者が神の力によって再び生かされるとき、

約束された喜びが訪れるのだ。だから、イエスがマルタに "あなたの兄弟はよみがえる"と言われたとき、彼女の心は自然に、命の祝福がすべての人に降り注ぐ新しい日に全人類に訪れるこの素晴らしい喜びの絵を思い浮かべた。イエスはマルタの言葉が真実であることを否定されなかった。実際、ベタニヤの家でのご自身のミニストリーのおかげで、マルタの心には、死によって眠りについていてすべての人が目覚めるといふ希望が輝きを放っていたのは間違いない。むしろ、イエスは彼女の信仰を確認し、こう言われた。わたしを信じる者は、死んでも生きる。わたしを信じて生きる者は、決して死ぬことはない。"ヨハネ11:25,26

「私は復活であり、命である」と主人は言った。つまり、死者が生かされ、エデンに再び花が咲き、その境界線が全地球を包む未来の日に、主人は神の力の水路となって、それを成し遂げるといふ意味である。イエスはこの世の偉大な光、命の光を与える方である。(ヨハネ1:9; 8:12;

9:5) 。イエスの王国支配は、健康と命の「日」をもたらす。預言者が "義の太陽"と表現しているように、彼は "癒しの翼"を持って現れる。マラキ4:2

キリスト

「これを信じるか？イエスはマルタに尋ねられた。人類に対する神の愛に満ちた目的が、その日にあなたの兄弟を生き返らせるのは私だと信じますか」。マルタは答えた。「あなたがメシア、神の子、神から世に来られた方だと、ずっと信じていました。(ヨハネ11:26,27) 。人が罪と死に堕ちたときから、神は救い主を遣わすと約束されていた。

アブラハムには、その「子孫」が "地のすべての家族を祝福する"という約束がなされた。(創世記12:1-3; 22:18) 。使徒パウロは、イエスはその約束の「種」と説明している。(ガラテヤ3:16) 。マルタはこのことも知っていたし、約束のキリストは地上のすべての家族を祝福する

のだから、キリストもまた "復活であり、命"でなければならぬことも知っていた。

マルタの時代でさえ、死ぬことは4000年以上続いていた。だから彼女は、キリストによって全人類を祝福するという神の約束が成就されるためには、死の中に眠っている人々を目覚めさせる必要があることを知っていた。

「わたしを信じる者は、死んでも生きる」とイエスは言われた。(ヨハネ11:25)と言われた。ここには、死の眠りからの目覚めという、すべての信仰者に対する明確な約束がある。これは主に、ラザロの死がイエスに対する信仰や忠誠心の欠如によるものではないことをマルタに保証するためのものであった。ラザロはイエスを信じていましたが、死にました。これは、当時から今日に至るまで、すべての信者に当てはまることである。イエスはマルタと私たちに、死が終わりではないことを保証されたのである。

そしてイエスは、不確実性の幕を引き、その「終わりの日」をさらに垣間見せ、全人類

に命を与えてくださる神の限りない愛をさらに理解できるようにされた。私を信じて生きる者は、決して死ぬことはない。なぜなら、すべての人は今死ぬからである。全人類の将来の命は、彼らが死の眠りから目覚めるかどうかにかかっている。義の太陽」が罪と死の長い夜の闇を消し去り、全人類に光と命をもたらす日である。そのとき生きている、キリストを信じる者たち（

）は、決して死ぬことはない-

彼らは実際に、人間として永遠に生き続けるのだ。

ぜぜひひ

その「終わりの日」、すなわち、信じる者すべてに永遠の命の祝福が保証される千年の日に、誰が生きているだろうか？神の計画は、すべての人を死の眠りから目覚めさせることだからだ。パウロは「正しい者も悪い者も復活する」と言う。(使徒24:15)。墓の中にいる者たちがみな、その声を聞いて出て来る時が来るからである」（ヨハネ5:28-

29)。(ヨハネ5:28-29)。この聖句の残りの部分の慰めの思いは、誤訳によって破壊されてしまった。正しく訳すと、"善いことをした者は生きるために起き上がり、悪いことをした者は断罪されるために起き上がる"となる。ヨハネ5:29

「善いことを行った者は、"いのちの復活"を迎える。これは、"栄光と誉れと不死"に値することを証明した聖別された信者の報いについて言及している。(ローマ2:7)。これらの人々は、アブラハムの「種」の一部として、キリストとともに生き、治め、それによって地上のすべての家族が祝福されるのである。(ガラテヤ3:27-29)。これらの人々はイエスに似た者となり、イエスの天上の栄光を分かち合うのである。(第1ヨハネ3:2)。彼らのものは"いのちの冠"であり、"神の性質"である。(黙示録2:10、2ペテロ1:4)。しかし、キリストとともに生き、支配するために復活する人々は、死んでいった何百万という人々に比べれば、ごく少数である。イエスは

彼らを、御国をお与えになることが父の喜びである「小さな群れ」と呼んでいる（ルカ12:32）。（ルカ12:32）。死者の大多数は、神の立場から見て善い行いをしなかった人々である。彼らは罪深く、死にゆく人種の一員として死んでいく。人間の基準によれば、彼らのほとんどは道徳的にまっすぐな人々であり、善良な市民であり、善良な隣人であった。

それにもかかわらず、神はこれらの人々をも愛しておられ、彼らが永遠に生きる機会を得るために、彼らのために御子を遣わし死なせたのである。イエスによって永遠の命を得ることは、信仰に基づいてのみ可能である。何百万人もの人々がイエスのことを聞いたことがなく、イエスのことを聞いたことがある人々の中にも、イエスがこの世に来られた本当の目的をはっきりと理解している人はほとんどいない。キリストとキリスト教に関しては、あまりにも多くの矛盾した理論があり、ほとんどの正直な人々は混乱している。彼らは意図的に邪悪なことをしてきたわけではな

いが、イエスの足跡をたどるという意味での「善」を行ってきたわけではない。

これらの何百万もの人々もまた、死の眠りから目覚めるのである。パウロはこの目覚めを「救われること」と言い、彼らが「救われ、真理を知るようになる」ことが神の御心であると説明している。(1テモテ2:4-

6)。そのとき、すべての人にはっきりと、紛れもなく知らされることになる偉大な真理とは、イエスが「すべての人のために身代金となられた」こと、つまり「全世界の罪」のために死なれたこと、そしてこの規定を受け入れる者が生きることができることである。

第1ヨハネ2:2

イエスがマルタに言われた「生きている者」、すなわち「終わりの日の復活において」死の眠りから目覚めた者、「わたしを信じる者は、決して死ぬことはない」(ヨハネ11:26)とは、このことを意味していたのである。(ヨハネ11:26)。それは世にとって試練の時であり、永遠の生か死を意味する重大な決

断を迫られる時である。(使徒17:31)。もし彼らが神に、イエスに、そして義に立ち返るなら、再び死ぬ必要はなく、信じることによって"永遠に生きる"のである。ヨハネ6:51

「これを信じるか？」

イエスがマルタにこの素晴らしい未来の命の希望を説明したとき、イエスは彼女に尋ねた。"

、あなたはこれを信じるか？"。これは、現代の私たち全員にとって、心を揺さぶる質問である。もし、私たちが神の約束に対する純粋な信仰を持つことができれば、愛する人が死によって奪われたとき、その苦しさや悲しみの多くは私たちの心から取り除かれることだろう。信じることができれば、死者が永遠にいなくなったわけではないこと、死者の輝かしい帰郷、死の眠りからの目覚めがあることを知ることができる。イエスはラザロについて弟子たちに「彼を目覚めさせるために行く」と言われた。イエスの犠牲によって、死は

永遠の忘却から静穏な眠りに変わり、そこから目覚めるのである。

文字通りの意味か？

復活の希望については多くの誤解があり、それが人々にとって何を意味するのか、現実を把握するのが難しいと感じる人が多い。しかし、イエスが、神の約束が成就されるまさに文字通りの方法を例示したのだから、それに関して曖昧であってはならない。私たちは

、ラザロのケースでこれらの例示の一つを行った。主人はマルタに一般的な復活の偉大な真理を説明し、「終わりの日」に目を覚まして主を信じる者は決して死なないことを明らかにした後、彼女の弟の墓に行き、神の力を使って彼を死から呼び出した。

イエスはラザロに向かって、「ラザロ、出てきなさい」と言われた。(ヨハネ11:43,44)。そしてイエスは、ラザロが再び自由に家族や友人たちと交わることができるように、ラザロから墓服を取り去るよう指示を与えた

。彼は、死ぬ前と同じラザロとして、彼らのもとに戻ってきた。彼は幻でも幽霊でもなかった。ラザロはテーブルをひっくり返したり、鏡をガラガラと揺らしたりして、自分が友人たちの中にいることを知らせる必要はなかったのだ。ラザロが死んでいたのと同じように、今、彼は生きており、姉妹と友人たちは喜んだ。墓の中にいるすべての人が、イエスの声を聞いて死の眠りから目覚めるとき、それが人類にとってどのような意味を持つのか、この中に実践的で理解しやすい実例がある。ラザロが死から目覚めさせる神の権威の声を聞いたときのベタニヤでの喜びの場面を、あなたの心の中で何十億倍にもしてみれば、地上のすべての家族を祝福するという神の約束の意味がある程度理解できるだろう。イエスがお生まれになった夜、天使たちが「すべての民に大きな喜びをもたらす良い知らせ」と表現したメッセージを正当化したのは、この世にイエスが来られたこの究極的な目的だったのです。今日、ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。ルカ2:10,11

大切な人が亡くなってしまい、心を痛めていませんか？残された人の人生にひどい空虚感が残るのだから。しかし、勇気を出してください。神のご計画の喜ばしい明日--それは今、間近に迫っている明日であり、その輝かしい再会の時に、あなたは愛する人に再び会えるのだ。その間、神の約束と、その約束を果たす神の能力を信じ続けなさい。そして、できることなら、自分の心を鼓舞し、夜の暗闇をやり過ごしながら、朝には必ずやってくる喜びを待ち続けることができる希望を、他の人々に伝えるという大きな喜びに身をゆだねてほしい。